

組織目標評価報告書（令和4年度）

部局名: **中性子医療研究センター**

部局長名: **那須 保友**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
目標に関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・専任及び兼務教員が関係する大学院コース(医歯薬学総合研究科並びに保健学研究科)の教育を担う。 ・大学院医歯薬学総合研究科に設置している分子イメージングコースの取得単位(講義)や関連するコースでの、BNCTに関する教育枠を増やし、当該領域に専門性の高い研究者を輩出する。 ・学内共同研究先と協力して、修士課程大学院生、博士課程大学院生、留学生に対しての研究指導を中心とした、積極的な教育を行い、BNCT研究者の輩出、論文作成を行う。 ・岡山大学IAEA協働センター(仮)による新規の優秀な留学生の獲得と新たな留学プログラムの構築準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度から開講の大学院保健学研究科の博士前期課程の中性子医療コースを開講し、BNCTによる中性子医療コースに特化した最新の知識と技術を獲得できるコースを継続維持しているが、今年度は履修者なし。 ・おかもやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)のコースへ講師参加を継続する。 ・医歯薬学総合研究科における教育・講義への積極的な参加を継続。中性子医療研究センターの分子イメージング部門としての研究推進の継続・強化、センター兼務教員として活躍。 ・大学院医歯薬学総合研究科修士課程大学院生、博士課程大学院生、留学生に対して積極的な研究指導を行い、中性子医療研究センターミーティングやセンター主催のシンポジウムでの発表や、意見交換を行う。実験指導、研究指導を通じ、BNCT拡大に大きく務める。 ・7月にIAEAとのWorkshop開催(岡山)、9月に岡山大学IAEA協働センターの指定を受け、協働センターの事業を開始した。
4-1-1	
9-1-3	
8-1-1	
7-1-2	
7-1-3	
②研究領域	
目標に関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・国内外研究者と連携し、世界最高レベルのBNCT研究拠点形成を目指す。 ・国外研究者とのBNCT関連の国際共同研究へ向けた取り組み強化を行い、世界規模での有用な新規シーズの発掘を行う。 ・国内研究者とALL JAPAN体制でのBNCT共同研究体制を構築し、世界へ向けてのBNCT国際連携拠点をアピールする。 ・学内BNCT共同研究体制を構築し、新たなBNCT協力体制やBNCTプロジェクトを立ち上げ、岡山大学内でのBNCTの認知度を高める。 ・BNCT関連の基礎研究より橋渡し研究に至るまで全分野での研究を進め、産学共創活動の推進、共同研究基盤の拡大を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山大学理学部、環境理工学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部との共同研究を進め、学内横断的なBNCT研究協力体制の構築、さらに岡山県特別電源事業にグループ研究を構築し、研究費獲得事業推進を行う(別グループ2件)。中国、台湾、等世界のBNCT研究者、治療関係者と情報交換を行い、世界のBNCT発見に努める。 ・名古屋大学、京都大学とBNCT研究に関する、共同研究を進展させ、AMED予算獲得に至る共同研究結果を得る(2022年AMED 学内教員参加)。特に、生物・薬学部分野におけるBNCT発展に注力し、新規ホウ素薬剤研究を中心とした活発な研究活動を行った。 ・口腔外科、脳神経外科、消化器外科、細胞生理学よりの博士課程大学院生との研究を進めると同時に、大学病院関係者との臨床BNCTの課題をリバーstransレーショナルとして岡山大学BNCTとして構築した。 ・橋渡し研究、シーズAやPre-F、AMED推進事業などへの積極的な予算獲得を行う。中性子医療研究センター所属のスタッフ全員が科研費申請・獲得を行う。
8-1-1	
8-1-2	
8-1-1	
8-2-1	
8-2-3	
8-2-1	
③社会貢献(診療を含む)領域	
目標に関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・中性子医療研究センター主催のシンポジウムを開催し、センターの業績の報告や各分野のトップランナーの講演・ディスカッションを通じて、対外的な研究力発進を務める。 ・IAEA(国際原子力機関)協働センター設立へ向けて、大学本部、各省庁(文部科学省、外務省)と連携して、IAEAへの働きかけ継続を行い、大学の世界展開力強化に寄与する。 ・2017年から2021年まで寄付を頂いていた鏡野町へ、センターの業績を説明したパンフレットを作成し、住民への情報発信を行う。 ・日本国内でのBNCTガイドライン策定に寄与し、IAEAに国際基準策定を働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーストリア・ウィーンに本部を置く国際原子力機関(IAEA)とBNCTの分野において初の協働センターの指定を受け、9月26日IAEA本部において協定を締結した。協働センター指定を機に、IAEAと密に連携し、BNCTの技術開発、高度専門人材を育成するための教育プログラムの開発などBNCTのグローバル拠点を確立し、世界のウエルビーイングに貢献していく。 ・IAEAと岡山大学のJoint Workshopを7月25日から29日までIAEA原子力科学応用局・物理化学部からIan SWAINSON博士が来訪され、岡山大学、大阪医科薬科大学(関西BNCT共同医療センター)、湘南鎌倉総合病院にて開催した。 ・BNCT技術の1つであるサイクロトロンを生みの親である「日本の原子物理学の父」仁科芳雄博士の科学振興仁科財団と岡山県里庄町の仁科会館と地域貢献としての共同研究を進めた。
1-2-3	
1-2-3	
1-1-2	
8-1-2	
④管理運営領域	
目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・大学院医歯薬学総合研究科等と連携してBNCT研究で外国人留学生を受け入れ、加えて、人材育成に努める。 ・学内共同研究にて博士課程大学院生、修士課程大学院生等の教育、研究活動、論文作成、学位取得を通じて、全学センターとしての運営活動を積極的に行う。 ・保健学科での大学院コース実施に協力する。 ・基幹経費化に伴い、積極的な研究費獲得に挑戦し、人的・資金面での継続的な発展に挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医歯薬学総合研究科に所属する2名の修士課程大学院生、4名の博士課程大学院生、3名の外国人留学生(フランス、中国、エジプト)を積極的に受け入れ、活発な研究活動を行った。 ・医歯薬学総合研究科、理学部、環境理工学部、ヘルスシステム統合科学研究科と、活発な共同研究活動を行い、BNCT全国学会(国内)、Young BNCT学会(国際)での成果発表を始め、学会やシンポジウムでの活発な発表を行っている。 ・外部資金獲得を目指し、研究グループを構成し、科研費、岡山県特別電源予算、などの予算獲得を行っている。 ・保健学科における「中性子医療コース」を継続し、最新の放射線治療知識を学ぶ教育課程への貢献を行っている。 ・NTRC所属の全教員が科研費獲得へ向け申請を行っており、新規の採択を得ている。
8-1-1	
8-1-2	
8-2-1	
8-2-3	
⑤センター・機構等業務	
目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域の目標の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会を適宜開催し、センターにおける運営方針を決定し、評価委員会(外部評価委員出席)を開催して、外部視点からの評価を踏まえた組織運営に努める。 ・打ち合わせ等に関してはWEB会議の利用を促進すると同時に、実験実施や詳細なプロジェクト検討に関しては感染予防に配慮した積極的な研究出張にて対応する。 ・おかもやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)や光放射線情報解析部門等の共同研究グループとの定期的なミーティングを行い、さらに学内でのBNCTプロジェクトグループを構築して、研究の発展、外部資金の獲得に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の運営委員会を定期的に開催することで、センターの体制整備を行った。センターの公正な評価を行い、運営に反映させるために有識者5名による外部評価委員会を新規に構築した。NTRCの運営体制強化のため、令和5年度運営委員に医学部、薬学部、保健学研究科より各1名教授の新規選出を行った。 ・国内および海外を問わず打ち合わせ等に関してはWEB会議を中心に行い、中性子照射実験を含めた放射線実験に関しては、詳細なプロジェクト事前に検討し、感染予防に配慮し積極的な研究出張を行った。 ・定期的に研究ミーティングを行い、理学部、光放射線情報解析部門、おかもやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)とBNCT研究プロジェクトを構築した。OMICと共同研究申請を行い2023年度橋渡し研究シーズ獲得に至った。
8-2-6	
12-1-3	
14-1-1	

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。